

立命館中学校・高等学校 2024 年度 学校目標年度末報告シート

教育目標

～新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校～（2030 チャレンジデザインより）	
①	自主自立を促す教育：自ら考え、自らすすんで行動できる人（主体性／社会貢献意識）
②	グローバル教育：世界を視野に、領域を超えて困難に立ち向かえる人（多様性尊重／人権意識）
③	STEAM 教育：学びを楽しみ、新しいものを生み出せる人（創造性／科学的探究）

重点目標

Ⅰ. 主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）	
Ⅱ. 人の思いを大切にし、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）	
Ⅲ. キャリア教育・進路指導の充実（小中高大一貫教育の環境を生かして）	
Ⅳ. サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の高度化	
Ⅴ. 生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進	
Ⅵ. 教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進	
Ⅶ. 安心安全を大切にした学校運営の一層の推進	
Ⅷ. 地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進	
Ⅸ. 創立 120 周年（2025 年）に向けた各種施策の具体化と確実な実施	

Ⅰ. 主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
	ICT も活用した主体的な学びを育む授業づくり	(1)	家庭学習習慣の定着を目指す取り組みの強化（進路指導、個別面談や家庭との協力を軸に）	△
		(2)	iPad も活用した双方向性の授業づくりと学力 3 要素のバランスのとれた学びの推進	○
		(3)	授業評価アンケートの実施と授業改善（前年度からの改善）	○
2	高い基礎学力の形成と定着	(1)	授業を一番大切に、生徒の学力を確実に向上させる学校体制（行事）の再構築	△
		(2)	中学校・高校における英語・数学の少人数講座や IT 授業についての成果検証と見直し	◎
		(3)	中学校、高校における個別最適化学習（MANA ヴィレッジ、スタディーサプリ）の実施と効果的な運用	○
		(4)	新カリキュラムの総括と生徒の意欲を高め、頑張りを励ます指導・評価方法の研究	◎
		(5)	高大連携科目や大学入学前講座Ⅰ・Ⅱによる附属校のメリットを活かした接続教育の実施	◎
3	探究力の育成	(1)	6 年での探究力育成を見据えた各学年の発達段階に応じた課題研究・探究力育成の推進	○
		(2)	サタデーボックス（教師も生徒もワクワクする取り組み）の充実（外部講師の招聘含む）	○
		(3)	新カリキュラムにおける教科間連携・教科授業と学年行事と教科教育の推進	○
		(4)	学外コンクール、学会 Jr. セッションなど成果発表機会への挑戦推進	◎

Ⅱ. 人の思いを大切に、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	人を笑顔にできる挨拶の推進	(1)	朝の挨拶運動（率先垂範）の年間を通じた実施による挨拶の雰囲気作り	◎
		(2)	式典、全校集会、学年集会などにおける「挨拶の意義」の浸透	◎

		(3)	教員自身による生徒や他の教員に対する挨拶の励行と温かい雰囲気づくり	○
		(4)	生徒会やクラブ員を中心とした、礼儀や挨拶面でも率先垂範となる校内リーダーの育成	○
2	世の中をよい方向に導こうとする志（人、モノ、心を大切にす倫理感の育成）	(1)	教学理念である「平和と民主主義」の精神を理解し、国際社会の平和を希求する心の涵養と平和学習の推進	◎
		(2)	環境美化および学校備品、施設を大切に使う意識の涵養	○
		(3)	生徒・教職員における多様性の理解と互いに包摂し合い、支え合う組織づくり	○
		(4)	地域交流・社会貢献活動（地域清掃、ボランティア等）の推進	◎
3	校内・校外における社会性の向上	(1)	通学路や駅、公共交通機関における社会的マナーの向上	△
		(2)	オープンキャンパスや文化祭などを通じた「おもてなしの心」の涵養と実践	◎
		(3)	道徳の時間等を活用した人権学習の推進	◎
		(4)	学校のルールや法を順守する意識の一層の涵養（成人年齢引き下げに伴う対応）	△

Ⅲ. キャリア教育・進路指導の充実（中高大一貫教育の環境を生かして）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	中学生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	職業や勤労に関する学習機会の一層の充実（職場体験機会の拡大・充実に向けて）	◎
		(2)	将来のコース選択に向けたより丁寧な情報提供の機会の創出	○
		(3)	立命館大学との「中大連携」による将来の進路や夢を考える機会の創出	◎
		(4)	保護者とともに取り組む子育て講演会等の実施	◎
2	高校生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	アカデミックデー、キャリアガイダンス、学部紹介 Day 等、進路学習の機会の充実	◎
		(2)	立命館大学、APU の各学部と連携した高大連携特別講座などへの参加推奨	◎
		(3)	生徒・保護者への適切な進路情報の提供とサポート	○
		(4)	医学部を始めとする他の難関大学・海外大学進学希望者への学習指導の充実と進路実現	○

Ⅳ. サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	サイエンス・STEAM 教育の推進	(1)	23 年連続 SSH 指定と新規重点枠指定にもとづくサイエンス教育の一層の充実	◎
		(2)	JSSF や国際共同課題研究の推進と国内の他の SSH 校への成果普及による日本全体への貢献	◎
		(3)	立命館大学理工学部と連携した新しい高大連携教育の推進と STEAM 先進校の視察	◎
		(4)	理系人材の育成数の拡大（特に女性の活躍モデルの提示など理系進学への支援強化）	○
		(5)	理工学部等との連携強化による「次世代型多目的ラボ（ファブスペース）」新設の具体化と実施	◎
2	グローバル教育の推進	(1)	留学の派遣ならびに積極的な留学生の受け入れ（一部有料化）の実施	◎
		(2)	RSGF を始めた海外校との SDGs を軸とした相互交流や研修企画の拡大	◎
		(3)	特色ある海外研修、国内研修の計画と安全な実施	◎
		(4)	グローバル教育を軸とした大学・研究機関・企業との積極的な連携の推進	◎

Ⅴ. 生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒会活動を中心とする自主活動の活性化	(1)	学校行事・学年行事を軸とした各クラス・学年でのリーダーとフォロワーの育成	○
		(2)	文化祭、体育祭の企画運営を軸とした全校規模での自治活動能力の育成	◎
		(3)	学内協議会（高校）、学校懇談会（中学校）を軸とした生徒会執行部の育成と力量向上	◎

2	クラブ活動の充実と適正化	(1)	モデルクラブを中心としたクラブ活動の充実と応援し合う学校文化への貢献	○
		(2)	モデルクラブの再選考を通じた、クラブの重点化と魅力の再創出	△
		(3)	クラブ活動を通じた高大連携・地域連携の推進（一部地域スポーツへの移行の検討）	◎
		(4)	クラブ数の適正化に向けた、クラブ委員会等における議論の継続	△
		(5)	教員の働き方改革と連動した、持続可能かつ魅力あるクラブ活動の今後のあり方の研究	△
3	中高各学年・コースの特色ある取り組みの推進	(1)	CE/SS コースにおける「自分たちでつくる」高校修学旅行の計画と実行	◎
		(2)	SSG クラス、GL コース、MS コースにおける研修旅行や特色ある取り組みの充実	◎
		(3)	2025 年度中学 3 年 AA 研修復活に向けた現地との交渉および各種準備の実施	◎
		(4)	中学校・高校における宿泊研修の実施を通じた集団づくり、リーダー育成	◎

VI. 教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	教職員の規範意識や指導力、専門スキルの向上を目的とした各種（悉皆）研修の充実	(1)	生徒の規範意識を育む指導とそれを支える教員の意識と指導力の向上	△
		(2)	サービスガイドラインの理解の徹底と確実な遵守	○
		(3)	言葉遣いも含めハラスメントを許さない学校文化づくりのための各種研修の実施	◎
		(4)	専門家によるいじめの防止と対策に関わる教員研修の実施	◎
		(5)	公開授業研究会等の実施による、よりよい授業研究の推進と附属校・提携校との連携推進	◎
		(6)	オンライン授業等にも適切かつ確実に対応するために必要な研修・トライアル等の実施	○
2	個々の課題に応じた希望者研修の推進	(1)	iPad やロイロノートをはじめとする ICT 活用技術の向上を目的としたスキル別、テーマ別教員研修の実施	◎
		(2)	新任教諭を対象とした研修機会の充実（校務分掌研修、授業力向上、教師塾参加）	◎
		(3)	教科指導力量並びに各種指導スキルを引き上げることを目的とした、学会や研究会などへの積極的な参加の奨励	◎
3	働き方改革の推進と生き生きと働ける持続可能な環境作り	(1)	連続勤務や長時間労働を抑制し、「働き方推進休暇」を最大限活用できる働きやすい職場環境づくりの推進	○
		(2)	教職協働や DX 化、外部委託などを通じた実質的な業務削減の実現	○
		(3)	魅力ある学校・教育づくりと法を遵守した休日確保や働き方改革の両立	○
		(4)	授業担当講師・クラブ指導員等への勤務管理の開始とその定着	◎
		(5)	専門家による勉強会などを通じた学校財政への理解と学校経営の「自分ごと化」	○

VII. 安心安全を大切にした学校運営の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	防火防災体制の強化	(1)	全校避難訓練の実施（年間 2 回の避難訓練、及び保護者対象安否確認シミュレーション）	◎
		(2)	自衛消防講習等への教員派遣による自衛消防の有資格者の計画的拡充	◎
		(3)	万一の災害時に必要な備品・飲料水・保存食などの安定供給のための備蓄倉庫の整備と定期的な点検の実施	○
2	生徒が安心して伸び伸びと活動できる学校づくり	(1)	校舎の安全点検の実施とすみやかな修繕・対応の実施	○
		(2)	いじめ対策委員会と学年会・生徒支援室で連携したいじめの未然防止と早期発見・解決	◎
		(3)	熱中症をはじめ各種生徒事故などの防止策の共有と発生時の敏速・適切な協力と対応	◎
		(4)	移転から 10 年が経過し、ICT を最大限活用できる各教室・実習室環境の再整備の実施	◎
		(5)	SNS、インターネット等の利用マナーの向上と生徒への啓発活動の強化	△

3	小中高連携の推進 と生徒支援の充実	(1)	R12 部長会議（小中高の管理職出席）を軸とした小中高連携と長期的視点での課題解決	◎
		(2)	小中高合同研修会の実施による小中高の教員間の相互連携・理解の一層の推進	◎
		(3)	生徒支援室を中心とした生徒支援体制の強化（心のケア、学習面）	◎
		(4)	SSW（スクールソーシャルワーカー）の新規配置による教員支援体制の強化	◎

VIII. 地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	地域連携の推進	(1)	長岡京市と連携した高1コアコースの課題研究の充実（「地域課題」探究プロジェクト）	◎
		(2)	文化・スポーツ活動などを通じた地域への貢献活動の推進（地域から愛される学校に）	◎
		(3)	授業、学校行事、クラブ活動等における地域との連携の推進	◎
		(4)	120 周年事業に関わる地域連携事業の創設の検討と実施	△
2	保護者・卒業生・ 教育後援会との連 携の推進	(1)	PTA と連携した「保護者に生徒の様子を見ていただく機会」の創出の工夫	◎
		(2)	立命館清和会と連携し、卒業生に立命館中高の現在の様子を知っていただく機会の創出	◎
		(3)	保護者アンケートの実施と可能な改善策の推進	◎
		(4)	保護者に対するていねいで迅速な連絡や応対による学校に対する安心感、信頼感の向上	◎
		(5)	教育後援会、卒業生父母の会との連携による生徒の活動支援の充実	◎
3	本校で学ぶ高い意 欲をもった生徒募 集の一層の推進	(1)	兵庫県をはじめ、新たな受験生エリア拡大を見据えた広報活動全体の強化	○
		(2)	生徒の姿が見えるオープンキャンパスや SNS やアプリも活用した本校志願者層の拡大	△
		(3)	立命館小学校と連携した小学校保護者・児童が立命館中高の学びを知る機会の拡大	○

IX. 創立 120 周年（2025 年）に向けた各種施策の検討とその具体化

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	120 周年記念事業 の検討と実施	(1)	記念事業実行委員会・実行委員長を中心とした施策の確定と実施	◎
		(2)	各施策小委員会による施策の確定と実施	◎
		(3)	各施策小委員会と生徒会との連携による生徒が主役となる事業（行事）の検討と実施	◎
		(4)	清和会との共同によるホームカミングデー（10 月 26 日）の実施	◎
		(5)	2025 年度に実施する附属校サミットに向けた各種広報と具体化に向けた準備	○
2	教育支援事業の検 討	(1)	設定した寄付目標額達成に向けての寄付広報の強化と企業訪問等の実施	△
		(2)	特定寄付項目（記念事業）の決定と実施	△
		(3)	清和会、父母の会等のネットワークを活用した教育支援の具体化と一部実施	◎
		(4)	教育支援事業を支え得る寄付政策の具体化と実施（目的別指定寄付など）	△
3	立命館大学 125 周 年記念とのリンク	(1)	立命館大学 125 周年・立命館小学校 20 周年記念事業との連携	△
		(2)	連携する具体的な記念事業の検討と具体化	△

達成状況

立命館中学校・高等学校は、「新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校」をミッションとし、創立 119 年の伝統のなかで大切にされてきた「自主自立を促す教育」を尊重しながら、時代の流れに柔軟に対応し「グローバル教育」や「STEAM 教育」への取り組みも強化してきた。その上で、高い学力や豊かな素養を身に付けることに加え「挨拶を中心とした丁寧なコミュニケーションの大切さ」、「自分の利益だけではなく、他者への思いやりの心」、そして「世界の平和とすべての人々の幸せのために貢献していく志」を培っていくメッセージを入学式、卒業式、全校集会な

どの機会を通して生徒たちに発信し続けてきた。人としての基盤がしっかりできていて、その上に豊かな個性が花開く学校になっていくことを目指した日々の取り組みの積み重ねにより、生徒たちの明るい挨拶が自然に飛び交う学校になってきている。

2024年度は新カリキュラムの完成年度を迎え、中学校では「総合探究基礎Ⅰ・Ⅱ」の新設、高校での「課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の時間の倍増が実現しました。また、進路やキャリアデザインに繋がる選択科目の充実も行った。生徒アンケートでも昨年度から向上が見られた。あわせて保護者アンケートにおいて進路指導に対する満足感が大きく向上した。

学校行事では生徒の主体性が発揮され、中学校では文化祭、体育祭などの全校レベルでの学校行事に創意工夫を凝らし、全校生徒の協力で質の高いものを創り上げている。中Ⅰ合唱コンクール、中Ⅰ、中Ⅱの英語での発表会も完成度が高く、中Ⅱの沖縄平和研修、中Ⅲの北海道への国内研修においても生徒たちは貴重な学びを積むことができた。

高校では、中学校での経験の上に、様々な生徒会活動、修学旅行などで生徒たちの主体性・自主自立の力が大いに発揮された。また、JSSF2024 (Japan Super Science Fair) や RSGF2024 (Rits Super Global Forum) は国際的にも高い評価を得ている。これらの取り組みは世界中から多くの参加者を集め、日本を代表する国際高校生フェアとしての地位を確立している。スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH) の取り組みも 23 年目を迎え、全国のモデル校としての役割を担っており、今年度は文部科学省をはじめ、国内外から多くの視察を受け入れた。また、各コースの生徒が課題研究の成果を様々な機会で開催し、日本学生科学賞や高校生国際フォーラムなど多くの受賞を得たことも大きな成果である。

グローバル教育の面では、海外研修プログラムのさらなる充実や海外かせの生徒受け入れ増加など、国際交流が活発化している。中高あわせて 28 のプログラムに計 443 名が参加し、貴重な経験を積むことができた。また海外からの受け入れも最大規模となり、教育協力協定校も 18 校に拡大した。

一方、個々の生徒に寄り添う支援体制も整備した。学習面での支援としては、MANA ヴィレッジの実践が運用 3 年目となった。また、「生徒支援室」を中心にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学教員とも連携し、生徒一人一人に沿った丁寧な支援を進めている。

進路面では、立命館大学・APU への進学が約 75%、他大学・海外大学への進学が約 25%という傾向が定着している。自由で明るい校風や在校生の様子、特色あるサイエンス&グローバル教育、一貫教育の魅力、多様な進路などが相まって、本校を多くの受験生に志願していただいている。

働き方改革については、ICT の活用等による業務効率化と、宿泊行事や海外研修、クラブの大会・合宿等の再開による業務量増加のバランスを取りながら、教員の健康維持と教育力向上の両立を目指している。特にクラブ活動のあり方の検討が重要となっている。

2025 年度の創立 120 周年を迎えるにあたり、様々な記念事業を実施した。4 月の第Ⅰグラウンドの竣工式・竣工イベント、全校生徒の大きな感動を呼んだ 5 月の「千と千尋の神隠し」の鑑賞、長岡京移転以降初めてとなるホームカミングデー等である。2025 年度には、次世代型多目的ラボの完成と運用、120 周年記念式典、120 周年記念誌の刊行、中高合同芸術祭、生徒募集型の夢プロジェクトの実施、附属校サミットの開催等が予定されており、それらの準備も着実に進んでいる。

立命館中学校・高等学校は、「自主自立の教育」「サイエンス教育」「グローバル教育」という強みを基盤としつつ、「探究力育成」をさらに重視した教育改革を進めている。この目標に向けて、国内外の先進的な教育手法を取り入れ、ICT を効果的に活用しながら、魅力ある授業づくりに取り組んでいく。

またカリキュラム・マネジメントを意識し、教科の授業と課題研究（探究学習）や学校行事との連携を進め、自ら課題を見いだして、他者とともに協働して課題解決に主体的に取り組める力や非認知能力を育む６カ年を見通した教育プログラムの開発に努める。附属校サミットの開催を機会ととらえ、最新の授業研究方法や生成 AI の活用法の検討、中高大院連携の一層の推進にも力を入れる。

同時に、入学時の学力差や発達の差に対応するため、学習支援策の強化や基礎学力向上のための家庭学習習慣の定着に取り組む。「生徒面談週間」などを通じて、一人一人の生徒に寄り添う目目細かなサポートも継続する。

立命館小学校との連携も強化し、児童や保護者が中高のことを知る機会を増やし、その児童にとって最適な進路指導に繋げていく。

働き方改革では「生徒の成長」を中心に据え、教員が生き生きと働ける環境作りを目指す。持続可能で持続可能で生徒と教員の双方がワクワクする教育の実現に向けて、教員の知恵を結集し、学校全体で取り組んでいく。

2025 年度の創立 120 周年に向けて様々な記念事業を計画している。その周年事業群を通じて、学校のアイデンティティを高め、教育力の向上と発信、支援ネットワークの強化に繋げていく。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	<学校評議員> 片桐 昌直（大阪教育大学 理事・副学長） 帯野 久美子（株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役） 武田 浄（ニデック株式会社人事部付部長・京都先端科学大学国際オフィス部長） 千 宗史（茶道裏千家 若宗匠） 駒井 潤（片山家能楽・京舞保存財団事務局長） 木曾 裕（弁護士法人 北浜法律事務所） 山出 洋基（サントリー株式会社 大阪統括支社第 2 支社 支店長、高校女子ホッケー部クラブ指導員） 中埜 博之（京都府 総合政策環境部 脱炭素社会推進課 課長） 孝忠 大輔（日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部 AI 人材育成センター長、NEC アカデミー for AI 学長） <委員> 東谷 保裕（立命館中学校・高等学校 校長）、伊坂 忠夫（学校法人立命館 副総長） 久野 信之（学校法人立命館 常務理事（一貫教育担当）） 藤原 大門（卒業生父母の会会長）、三宅 尚嗣（PTA 会長）、藤本 麻里子（PTA 副会長）、足立 恵美（PTA 副会長） <オブザーバー> 横澤 広久（学校法人立命館 一貫教育部部長）、久保田 一暁（立命館中学校・高等学校 副校長） 白井 有紀（立命館中学校・高等学校 副校長）
	開催日程 第 1 回 2024 年 6 月 27 日 2024 年度 立命館中学校・高等学校の目標等 主な議題 第 2 回 2025 年 3 月 13 日 2024 年度 立命館中学校・高等学校の自己評価等

評価・改善 事項	・ JSSF を代表とする SSH の取組などを通して、生徒が主体的に取り組むよう成長していくことを改めて実感した。 ・ 充実した学校行事、海外派遣や受け入れなど、海外で同様の取組を行っている学校と比較すると、かなり抑えた学費で努力されている。 ・ 過去には、SSH の取組み自体に大きなインパクトがあり、学校の特色教育が明確であった。最近では、様々な取り組みへと発展しており、より豊かな教育を展開していると思う。他方で学校の特色が見えにくくなっているような印象を受ける。
---------------------	--